



# 自治会だより

2022  
新春号

～世代超え 気持ち繋がる  
ふるさとへ～

元旦の高岩神社



## 新春によせて

会長 小田木 文雄



明けましておめでとーございませう。皆様には良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。今年度より自治会長を仰せつかり、役員、班長、会員の皆様のご支援ご協力に支えられ、これまでなんとか務めさせていただきました。

しかし、昨年相変わらずコロナウイルスがおさまらず、自治会活動に影響が出て各種行事が中止となりました。さみしい限りです。今年も気を緩めることなく、マスク・手洗い・3密注意を心がけていきたいと思ひます。

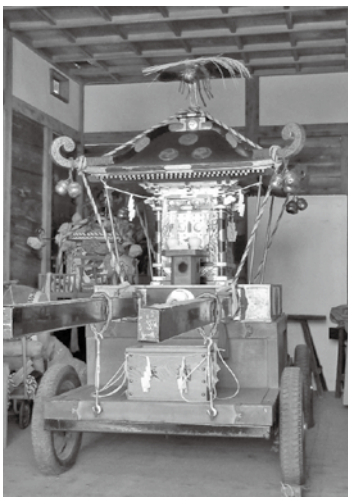
そして昨年は、30年と永く親しんできた白岡ニュータウンの有線放送CATV・11chが設備の老朽化に伴い、民間有線放送J・COMに移行しました。

11chはテレビでは見られなくなりましたが、LINEで一斉配信をすることで代替としました。ウェブサイトを

でも白岡ニュータウン自治会のホームページを見ることができ、その中で11ch(PDF)を見ることが出来ます。これらの移行に関して、広報部の皆様活躍に感謝しております。

昨年は異常気象による様々な災害が発生しました。住民の高齢化が白岡ニュータウンでも進んできていますので、災害に対して自治会でも対応を考慮していかなければならないと考えています。

老若男女、皆が住みやすい白岡ニュータウンに向けて、自治会も頑張っていきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



## 自主防災訓練の実施結果

10月31日、2度目の「ウィズ・コロナ型」自主防災訓練を実施しました。

昨年同様、大勢が集まらずに行える訓練として、各戸で災害発生直後に住人の安否を示す「無事ですタオル」を掲出する訓練を行いました。タオル掲出率は76%で、昨年の64%を大きく上回りました。ご協力ありがとうございました。



## 歳末パトロール実施

昨年から保安部の活動を中止していましたが、ようやく年末の12月28日に歳末特別パトロールを再開することができました。



今年は一班につき3〜4人の少人数でしたが、拍子木で調子を取り、メガホンで『防犯パトロール実施中』を呼びかけながら町内を巡回しました。気温7度の寒さの中、行き会う人もまばらでしたが、暖かい声援をいただきました。ご協力ありがとうございました。来年度は従来通りの活動ができることを期待しております。



ホームページと  
LINEのご案内

(<https://ntjtkaiwp.sakura.ne.jp/wp/>)では、引き続きPDFでお知らせしています。また、LINEでは毎週土曜日に最新の情報をお知らせしていきますので、ご活用ください。

左記のQRコードからLINEの友達登録ができます



特別寄稿 白岡人物伝 (第十二回)

## 白岡梨栽培の先駆者 加藤豊吉 (第二回)

白岡市文化財保護審議会会長 板垣 時夫

今回は、白岡市で最初に梨栽培を始めた加藤家の戦後からの様子を紹介します。

### 梨園の復興

敗戦後、帰還した加藤翁の最初の仕事は荒廃した梨園の復興であった。まさに戦後の食糧増産の時であった。

昭和24年頃には梨栽培の同志であり、後の白岡町長を6期努めた5歳年下の荒井宏氏との出会いがある。同じ荒井新田の梨栽培を行う精農家同士でもあった二人が中心となって「白岡梨」の発展に力を注ぐことになる。

昭和27年には、大山梨組合が梨の選果と出荷作業を関東地方で最初に共同選果として始めた。

### 梨の販売拡大

昭和32年には、加藤翁は第八代大山梨組合長に就任した。昭和16年にも30歳の若さで第三代の組合長を務めているので、2度目の務めであり人望の程が察せられる。

この期の功績として、県内初の移動防除機「スピードスプレーヤー」(SS)を導入し、共同防除体制を作り上げた。今まで、手で噴霧器を押しながら行っていた梨の薬剤散布作業を動力により効率化したものである。(下段写真参照)

また、販路の拡大がある。北海道札幌市に貨車を利用した輸送が行われた。もともと、これは埼玉県の果実組合としての仕事であるが、その主要

な事業は白岡町の梨組合の仕事であった。まさに画期的なことである。

さらに昭和38年には、大雪で北陸地方の梨棚が潰れるような被害が発生し、金沢市や七尾市への販路開拓を図った。これは昭和55年まで18年間も続いた。

### 幸水の誕生

昭和38年頃、梨栽培の大きな転換につながるがあった。農学博士で幸水研究家の猪瀬敏郎氏との出会いである。埼玉県久喜園芸試験場勤務の猪瀬技師と精農家の出会いがあり、幸水の研究が始まった。

昭和45年頃は、今までの長十郎から幸水をはじめとする豊水・新水の「三水」出現の時代である。加藤翁と猪瀬技師との研究が実り、水田転作特別事業として、大山小学校南側の荒井新田に「嶋岡幸水団地」が着工となり、昭和50年の



果樹園用移動型薬剤噴霧器 (スピードスプレーヤー)

完成に向って大きく前進した。このように、白岡梨、埼玉梨の発展に大きく貢献した加藤翁の業績が認められ、昭和45年に「関東甲信越優秀農家」、平成4年秋に「勲五等瑞宝章」を受賞された。

加藤翁のもう一つの足跡として、昭和35年から平成7年まで白岡町選挙管理委員会の委員と委員長を通算35年間も誠実に務めたことがあげられる。

## 「令和カフェ」案内

新白岡令和クラブ 浅井 嘉一

3年目を迎え「一日限定のカフェ」は、昨年春から、諸々年間計画を立てましたが、新型コロナウイルス禍で相次ぐ緊急事態で自粛やたびたびの延期を余儀なくされ苦悩の連続。そんな中ようやく第一回を秋風吹く10月に開催、多くのご来店にうれしさが込みあげました。

会場での飲食が不可能なため、地域の各団体をお願いして踊りや音楽などの「鑑賞型」に変えました。主婦たちに人気の手作り作品の販売は、三密の恐れもあり、しばらく出店を見送りました。

屋外の野菜マルシェは、蓮田、上野田、高岩などの農家や遠くは上州、信州からも季節野菜や果物、シクラメンまで提供頂き、即完売とあって提供者共々嬉しい悲鳴でした。

11、12月は「サヨナラCAT V」と題して長い間親しまれてきた自治会11ch最後の放送として過去の自治会活動、新白岡駅誕生の記録やドローンによる空からのニュータウン映像などを大型テレビでも懐かしい想いで堪能することができました。

1月23日は新春にふさわしく琴の調べでスタートする予定でしたが、感染急増のため延期することになりました。



コロナの感染不安はまだ消えそうにありません。スタッフも予防には十分気を付けながら、努めてまいります。



気軽に集える憩いの場づくりを目指し、皆様のご期待に沿えるよう努力します。ぜひお立ち寄り頂きたくお待ちしています。

## 編集後記

最近、高校生の息子が修学旅行で長崎に行ってきました。もっと活発に楽しく過ごせるはずだった高校生活でしたがこの2年間、様々なイベントが中止・縮小され、子供達には残念な思いをさせていました。しかし、修学旅行に無事行くことができ、友達とともに楽しんで過ごせたようです。少しずつですが、感染予防対策などが進み、できることが増えてきていますね。

自治会活動も様々なイベントが中止になっており、広報活動も縮小せざるを得ない状況です。ウイルスに打ち勝つ日が早く来て、自治会活動が活発になり、子供たちの笑顔が見れるようになって欲しいものです。

(藤田)